

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100459		
法人名	有限会社ライフ・シップ		
事業所名	嘉瀬紀水苑		
所在地	佐賀市嘉瀬町大字萩野698番地		
自己評価作成日	平成27年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年3月23日	外部評価確定日	平成27年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域交流「おしるこ会」が、第10回目が開催させて貰えて地域の方が「毎年、楽しみにしているヨ。」と言って貰える事。又、地域の子供たちが、遊びに寄ってくれたり、夏休み、クリスマス会にも来てくれてゲームや歌などを一緒に楽しんだり出来る事。「子供110番」を設置させて頂いています。中学生の福祉体験学習で、三つの中学校の生徒さんが来苑されて出し物を披露されたり、近隣と一緒に散歩されたり一緒に食事をされて、福祉体験されてます。ご利用者様も、買い物と一緒に掛けています。利用者様を支えて行く関わりの中で、地域の方や子供達との関わりも大切に行きたいと思っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>介護の仕事を経験してきた代表者が、時間にとられない、普通の暮らしを目指して設立したグループホームである。自然な関わりで、利用者と共に生活するという意識が、日常の関わりの中からも窺える。近隣には森林公園やパルーン会場があり、四季の移ろいをホームに居ながら感じることができる。代表者が事業所の近隣に居住していることから、設立当初から地域と繋がり、見守られながら運営してきた経緯があり、災害時や毎日の暮らしにも協力関係が構築できている。近隣の子供たちも普通のことのように遊びに来ている。入居者が病気の時には、子供たちが千羽鶴を持参してくれたこともあった。地域とホームが垣根のない自然な付き合いができているところは優れている点である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえて理念をつくり、全職員が、その理念を共有して日々の業務の中で実践につなげている。	毎年理念を検討、見直している。理念を基に目標を掲げ実践につなげている。ミーティング時に理念を唱和し、勉強会ではケアを振り返る機会を作り、入居者と関わる中で気づきを出し合い検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会の参加や子供110番、地域交流「おしるこ会」「クリスマス会」等交流している。又、地域の子供達が遊びに寄ってくれたり、近隣散歩の時に挨拶したり、日常的に交流している。	自治会に入会し、草むしりや公民館掃除等の区役に出たり、回覧板で地域の情報を得、参加し交流の機会を作っている。ホーム設立当初から地域交流の大切さを理解しており、現在は近隣の住民が日常的に自由に立ち寄れるホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて高齢者の方等に暮らしに役立てることがないか、話し合い地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者様やご家族、地域包括支援センターの方がご出席して頂き、外部評価、自己評価の報告や話し合いを行い、いろいろな意見を活かしながらサービス向上に努めている。	会議は、地域住民や家族、行政等の参加により定期的に開催され、議題に添って意見をいただいている。会議内容により、消防団長や消防署員が参加される場合や、AEDの講義もあり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方と連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の主催の研修会や説明会に参加し、介護保険内容の相談をしたり、佐賀中部広域連合や包括支援センターへ現況や空き情報を伝え、入居の希望者を紹介してもらうこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解して、玄関の施錠は夜間の戸締りのみで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作り、ホームで勉強会を開催し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関や非常口の鍵も夜間のみとし、利用者が日中に離設される場合は、一緒に散歩をして気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止法について勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、入浴時には利用者様の全身観察をして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を利用されていて関係者と話し合い、その方に必要な支援をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族との契約の締結時や解約又は改定等の時は十分な説明を行い理解と納得が得られるように、又、不安や疑問点を尋ねて理解、納得をして頂けるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等が意見、要望、ご不満、苦情等と言える雰囲気づくりに努め、運営に反映させている。	年1回家族会を開催し、ホーム運営に関する意見を聞く機会を作っている。面会時にも気軽に言ってもらえるよう関係の構築に努めている。これまでに冷房設備設置の要望や、受診付き添い等に関する意見が出され、サービス向上に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を日頃より設けて、反映させている。	会議や、検討会等で職員は自由に意見を言うことができる。管理者と職員は、入居者を中心にしたケアを考え、質の向上を目指しており、関わり方やケア方法等検討し合っている。また、職員個々の家庭環境等に配慮し、努めやすい職場を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働いて貰える職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら学ぶことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会をつくり、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人が困ったこと、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご本人の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族等が困ったこと、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご家族等の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、介護保険申請がされていない方、医療的に必要な方、施設に慣れられるか心配の方等に適した対処の方法を説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、利用者様から、色々と学ぶ機会が多く、暮らしを共にして、支え合える関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問があり、外出があり、ご本人の好物の差し入れが有り、一緒に寛がれて、家族の絆を大切にされていることを全職員が共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされている馴染みの人や場所、近隣の方が途切れないように支援に努めている。	行きつけの美容院への送迎や個々の希望による商店での買い物等へ出かけている。出身地の民生委員や古くからの知り合いが面会に来られており、接待に心がけ入居後も関係が途切れないよう支援している。法事等個別の外出には家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を全職員が把握し、共有し、孤立されることがないように、又、利用者様同士の関わり合いも持たれて、共に支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、利用者様やご家族等とのこれまでの関係を大切にしながら、御見舞、相談等、継続的に関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、全職員で情報を共有し、ご本人の意向に出来るだけ沿うように努めている。	生活歴の把握や入居後の暮らしについての希望を本人や家族から聞き、ホーム独自のアセスメント様式を用い職員で共有している。入浴時や入眠前に本人とゆっくり話す時間をつくり、思いの把握に努め、思いを大切にすることを考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、情報収集し生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所用方式アセスメント表を用いて、ご本人がより良く暮らして頂けるように課題とケアの在り方についてご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、モニタリングし、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の介護計画は、本人の意向や家族の希望も含め、その人らしさが窺える計画が作成されている。定期的にモニタリング、評価、見直し、更新がなされている。家族からは事前に意見を聴取し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践やモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりを支えるため、ご家族の状況、その時々生まれるニーズや要望に対応して柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握して地域の方のボランティア、民生委員、消防、教育機関等の関係の方と協働しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及び家族等の希望を大切に、又、納得が得られたかかりつけ医が往診に来て頂き、事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望される医療機関を優先し、受診されている。付き添いは家族に依頼しているが、無理な場合は職員が付き添う。医療機関への情報提供や家族への報告もその都度行い、連携に努めている。協力医療機関へは、緊急時に24時間受診できる体制がとられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づき、身体状態、経過等を看護職員に伝えて相談し、利用者様の健康管理や医療活用の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、安心して治療が出来るように、又、出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、そうした場合に備えて連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時の、早い段階からご本人・ご家族等と話し合い、重度化した場合や終末期の看取りの指針について事業所のできる事等を説明し同意を得ている。かかりつけ医と地域関係者と共に支援に取り組んでいる。	重度化した場合や看取りに関する指針を作成し、入居時に説明、同意を得ている。看取りの経験はないが、ホームで最期を迎えることも前向きに捉え、医師の協力を得ながら、家族と段階ごとに話し合い、ホームのできる事したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けて行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に備えて、利用者様が避難できる訓練を全職員が身につけるようにし、地域の方と協力体制を得られるように働きかけている。	定期的に避難訓練を開催し、火災の他、水害避難訓練についても消防署の指導を受け訓練に取り入れている。運営推進会議を通じて、消防団や地域役員さんの協力を得る体制がとられている。ホーム代表は、近隣に居住されているので、緊急時にも駆けつけることができる。また、自動通報システムやスプリンクラーを完備している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、言葉かけや所在の把握を確認しながら安全に過ごして頂けるように対応している。	人格の尊重やプライバシーに関する勉強会は、社協や紀水苑グループでも開催され、できるだけ参加して接遇の向上に努めている。ホームの検討会では、日頃のケアを振り返り、職員の言葉遣いに配慮する指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望や思い、自己決定できるように働きかけ、聞かせて貰っている。自分で決めたり、納得されながら暮らされている。強制や押しつけの支援とならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、体調状態、気分に配慮しながらご希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい理美容は訪問にて支援させていただいている。利用者の方も気に入っておられる。又、利用者の姉妹の方が定期的に散髪していただき、ご本人も喜んでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるように一人ひとりの好みや形態、力を活かしながら、利用者様と職員が食事をして、片付けを一緒にしている。	入居者の好みを考えた献立を作成し、買い物や準備、後片付け等、できる事を手伝ってもらっている。職員も介護をしながら、楽しい食事となるよう配慮しつつ一緒に食べている。一人ひとりの状態に応じた食事形態を提供している。苑内での弁当も入居者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の一人ひとりの食事摂取量や栄養バランス、水分量(食事以外で1000CC)が1日を通じて確保できるように、形態、品を変えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉掛けや誘導が必要な方等支援している。ご本人の習慣を活かして、なるべくトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応の為に飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組むように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は御一人づつ、ゆっくり入って頂いている。希望やタイミングが必要な方には、その方に合わせて入浴を楽しんで頂けるように安全に配慮して支援している。	入浴は、週3回を基本としているが、個々に応じ臨機応変に対応できる。これまでも、希望により夜間入浴も実施していたが、現在は、日中を好まれている。入浴できない日は、清拭をし、毎朝陰部洗浄にて保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、休憩、睡眠を取って頂いている。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用されている薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努め、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、好きな物や楽しみごと、気分転換、散歩や買い物、気晴らし等、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には、近隣散歩や苑庭での日向ぼっこやご本人の希望を聞かせて貰いなから買い物支援等に努めている。又、ご家族と協力して頂きながら支援に努めている。	日常的な散歩は、近隣の方との交流が深まり、入居者の楽しみでもある。バルーン大会時にはすぐ近くからでも見学できる。他にも季節ごとのドライブや希望に応じた買い物も支援している。個別の外出は、家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる所持金。ご家族の要望に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の大切なご家族や知人の方に、ご本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路沿いにありて、車音、暴風音の騒音防止に2重サッシでホール天井窓から優しい光を取り入れている。利用者様と一緒に作った季節暦、張り絵や花で季節を感じて貰える工夫をしている。	ホールは、天窓からの自然光が差し込みとても明るい。ホームが県道沿いにあるため、騒音防止の二重サッシにしている。玄関前のプランターには花が咲き誇り、季節感がある。キッチンや家具は家庭的で温かい雰囲気である。入居者の家族の作品である絵画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が思い思いに過ごせるように、ソファや椅子が有り、又、独りになれたり出来る居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの物や使い慣れたもの、好みのもの、アルバム等を持参されて居心地良く過ごせるように工夫している。	入居時に使い慣れた家具等を持参してもらうよう説明している。居室は、利用者それぞれの好みに応じて家具や、家族の写真が飾られ、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立されて暮らせるように環境づくりに工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		取り組みの成果 ↓該当するものに○印をつけてください	
項 目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない